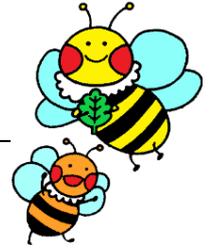




いぶき

【学校教育目標】自律・尊重



負ける練習のすすめ…

書家で詩人の相田みつをさん。ご存じの方も多いかと思います。「子どものうちに『負ける練習』をできるだけ積んだ方がいい」と相田さんは言っています。なぜ「成功する体験」ではなく、「負ける練習」が大事なのでしょうか。

私事で恐縮ですが、末の娘が幼稚園の教員をしております。理想の保育を夢みて、今年度より3歳児クラスの担任となりましたが、現実には甘くありません。新米教師の話に子どもたちはなかなか耳を貸そうとしません。（わいわいがちゃがちゃ…）保護者の方にとっては、大学出たての若い先生に不安もあるようです。当初やる気と緊張で輝いていた娘の笑顔も、次第に引きつり始め、子どもたちが帰った頃にはもうへとへと。やることなすこと、自分の思い通りにはいかないと、夕飯時にはいつも嘆いています。そうなんです。現実には甘くないのですね。これは何も、幼稚園の先生に限ったことではなく、どの社会も厳しく過酷です。

内輪の話をもう一つ。次男夫婦に赤ちゃんが生まれました。まあ、じいちゃんの私としてはたいした責任もないので、ただかわいがっているだけでよいのですが、息子夫婦はそうはいきません。育児・家事の分担をしながら必死に奮闘しています。思い描いていた赤ちゃんとのバラ色の新生活も、現実とは違うようです。ミルクを飲まない、夜泣きをする、ベッドに寝かしたとたん起きてぐずる、おしっことうんちの回数が少ない、などなど。とにかく手がかかり、悩みや心配が多く、夫婦ともども寝不足となり、へとへとの様子。24時間年中無休。何が正しくて、どうすればよいのか…。子育ては、ある意味仕事以上に難しく、失敗と試行錯誤の連続です。

そうなんです。人生うまくいくことばかりではありません。それどころか、大人になると、自分の思い通りにならないこと（失敗）の方が圧倒的に多いわけです。その時に大切なことは何か。それは、自分が直面した課題にしっかりと向き合い、失敗を重ねながらも乗り越えていく力（課題解決能力と耐性）を自分自身の中に持っていることです。（これを「生きる力」と呼ぶのかもしれませんが）だから、「負ける練習」が必要だということですね。

もしも、思い通りにいかない体験を子どもの頃に積むことなく、生きる力が育たないまま大人になってしまったらどうなるのでしょうか。課題に向き合うことを避け、できないことの言い訳をし、周囲に責任を転嫁するのが関の山かもしれません。あるいはノイローゼになったり、自暴自棄になったり、現実から逃避するか…。子どもたちがそんな大人に育ってからは遅いわけですね。

さて、いずれ厳しい荒波の中で生きていかなければならない子どもたちを、私たちはどのようにして育てていけばよいのでしょうか。具体例をもとに考えてみましょう。

<例1>我が子が勉強に躓いて困っているとしたら、親としてどうすればよいか。

- ①こちらから声をかけてわからないところを教えてあげる。あるいは、これ以上困らないよう、塾に入れて学習のサポートをする。
- ②自分から「教えてほしい」と言うまで待つ。本人にどうしたいのか（どうなりたいのか）を考えさせる。「勉強ができるようになりたい」というのなら、まず学校でしっかり学ぶよう助言し見守る。

<例2>友だちからいじわるをされて我が子が泣いて帰宅してきた。その時親としてどうすればよいか。

- ①我が子から話を聞いてみると、相手の子どもが一方的に悪い。相手の親に連絡をして、指導してもらおう。また、「もうその子とは遊ばないように」と我が子に伝え、距離をとらせる。担任には、来年度同じクラスにならないよう強く求める。
- ②話を聞いた上で、本人にどうしたいのかを尋ねる。「今回のことは嫌だったから、謝って

ほしい。でも、これからもその子と遊びたい」と子どもが言うなら、その気持ちを自分の力で伝えるように励ます。できる限り子ども自身の力で解決できるようサポートする。

(そもそも、我が子の言い分が100%正しいとは限らない。)

①の対応は、いずれもかわいい我が子を保護し、守ろうとする親の姿勢と対応です。一方、②の対応は、困っている子どもを直接親は助けません。その状況から子どもが自分自身の力で這い上がるようサポートするという姿勢と対応です。要は、「負ける練習」を見守るということですね。具体的な状況というのは、いつも複雑なので、どちらが正しいというのは一概には言えません。ただ一つ言えること。それは、親が常に①のような関わり方をしていたら、子どもは依存的になり、親が解決してくれるのを待つ受け身の子どもに育つ可能性が高いということです。なんなら、解決できなければ、いずれ「親のせいだ!」と、親を責め立てるようになるかねません。一方、②のような対応をしていると、子どもの中に「自分の問題は自分で解決する」という姿勢が育ちます。そして現実には立ち向かい、失敗すればまたそれを自分事と受け止めて、そこから這い上がろうとします。もちろん「親」はそばに寄り添い、「木」に「立」って「見」守り続けるわけですが。

親として楽なのは、ある意味①の対応かもしれません。子どもの「困った姿」を見続けずに済むので精神的にも楽なわけです。大人の力で解決してしまった方が事は早いですがね。

一方、②の道のりは楽ではありません。子どもが悩んだり落ち込んだりしている姿を見守り続けるのは、親としてはやはりきついですよね。ただし、「負ける練習」を積み上げた子どもはタフな大人へと育つことは間違いありません。

子どもは育てたように育ちます。子どもをどのような大人へと育てたいのか。我々大人は10年後を見越し、地に足つけて、子どもたちを育てていきたいものです。

2学期もよろしくお願いいたします。

◇ 9月の行事予定

日	曜日	行事予定	日	曜日	行事予定
2	月	3時間授業 (11:50下校)	17	火	進度調整日 (13:40下校)
3	火	3時間授業 (11:50下校)	18	水	進度調整日 (13:40下校) 水泳指導 1年, 3年 京葉ガス出前授業 (4年1組)
4	水	給食開始 委員会活動 身体測定 ひまわり, 3年, 6年 水泳指導 2年, 5年	19	木	全学年5時間授業 図書整備ボランティア (10:15~)
5	木	身体測定 4年, 5年	20	金	全学年5時間授業 避難訓練 ステップアップ学習会 (3年)
6	金	身体測定 1年, 2年 ステップアップ学習会 (3年)	23	月	振替休日 (22日 秋分の日)
9	月	交通安全教室 (全学年) 版画教室 (4年)	24	火	ベルマーク集計日 校外学習 (ひまわり) 京葉ガス出前授業 (4年2組)
10	火	クリーンボランティア (10:00~) 図書整備ボランティア (10:15~) スクーリングセラ-来校	25	水	水泳指導 1年, 3年 京葉ガス出前授業 (4年3組) なかよし活動
11	水	読書ボランティア読み聞かせ (4年) 水泳指導 1年, 3年	26	木	全学年5時間授業 ひまわり学級出前授業 (藍染体験)
13	金	進度調整日 (13:40下校)	27	金	ステップアップ学習会 (3年)
16	月	敬老の日	30	月	芸術鑑賞会

【お知らせ】

- ・10月21日(月), 23日(水)の下校時刻について

運動会係児童打ち合わせ(14:50~15:35)のため以下のとおりにします。

運動会係がある4年生児童, 5年, 6年生 ・・15:40下校

1~4年(運動会係がない児童) ・・14:50下校

- ・卒業式は, 3月14日(金)に決定しました。